

令和3年度 第2回博物館協議会 (web用)

日 時	令和3年7月27日(火) 午後1時30分～午後2時45分	
場 所	安城市歴史博物館2階講座室	
出席委員	高山 忠士	会長
	加藤りせ子	副会長
	加藤 正彦	
	荒井 信貴	
	市川とし子	
	平岩 政志	
事務局	永井 教彦	生涯学習部長
	近藤 一博	文化振興課長
	片岡 晃	安城市歴史博物館館長
	伊藤 基之	学芸係長
	野上真由美	専門主査
	西島 庸介	主査
	井上宗一郎	指定管理者
		安祥文化のさと地域運営共同体総括責任者
	早川 博貴	指定管理者
		安祥文化のさと地域運営共同体副総括責任者
閉 会	午後2時45分	

<開会のことば>

事務局	<p>ただいまから、博物館協議会を開催いたします。本協議会は、「安城市歴史博物館の設置および管理に関する条例」第22条により博物館長の諮問機関として設置された機関であり、委員の皆様方にはより良い博物館としていくために、館の運営について意見を述べていただくためお集まりいただいております。</p> <p>今年度より2年間の任期となりますので、よろしく願いいたします。委員の皆様の名につきましては資料2ページの委員名簿をご覧ください。</p>
-----	---

<1 会長・副会長選出>

事務局	<p>第1回博物館協議会が中止になりましたので、今回が今年度初めての協議会となります。新たな任期が始まりますので、会長・副会長の選</p>
-----	---

	出をお願いいたします。「安城市歴史博物館の管理及び運営に関する規則」の第19条に「それぞれ委員の互選により定める。」とありますので、皆様からのご推薦をお願いいたします。どなたか、ご意見はございませんか。
A委員	前年度に引き続いての委員の方も多いため、引き続き博物館に造詣の深い高山委員、副会長には安城の文化に広く関わる加藤りせ子委員をお願いしたいと思います。
事務局	A委員より会長は高山委員、副会長は加藤りせ子委員の推薦がありました。皆様、いかがでしょうか。
委員一同	異議なし。
事務局	それでは会長・副会長が決まりましたので、ご両人は前の席へお移りいただけますでしょうか。 それでは、会長から一言ごあいさつをいただきたいと思います。高山会長、よろしく申し上げます。
会長	会長に推薦いただいた高山です。今年度上半期に連続講座を担当させていただく機会を得て、コロナ渦においても歴史・文化に興味を持つ非常に意識の高い方が多く、講座担当者の話によれば受講者募集は初日に定員に達したということでした。本来はもう少し多い人数で開催する予定だったとは思いますが、バスを利用して安城の景観を観察する講座でもあったため、バス定員の50%以下ということで定員10名での開催となりました。こうした中でも講座を開くという意欲的な姿勢があり、我々もこうした博物館活動を支えたい、そのための協議会であるとも思っています。本日はよろしくお願いいたします。

## < 2 協議事項 >

### < (1) 令和3年度開催済事業報告 >

事務局	それでは「2 協議事項」に移ります。議事の取り回しについては、「安城市歴史博物館の管理及び運営に関する規則」第19条の3に「会長は、会務を総理し、会議の議長を務める」となっておりますので、高山会長をお願いいたします。
会長	それでは協議事項に入ります。「(1) 令和3年度開催済事業報告」について、事務局からの説明をお願いします。
事務局	(説明)
会長	事務局の説明が終わりました。質問等がございましたらお願いしま

	す。
B委員	<p>一宮市の久保禎子さんの企画展記念講演会「米づくりをめぐる民俗とその歴史」は緊急事態宣言下に一度延期となりましたが、日程変更で開催いただきました。久保さんは情熱的な方で受講者にも民具研究の喜びや楽しみが非常に伝わる、大変すばらしい講演会でした。ZOOMなどの講演会では伝わりにくい部分があり、やはり対面は重要だと感じました。博物館活動はコロナ渦で難しいことは理解していますが、ぜひこうした講座を続けていただけるとありがたいという要望です。</p> <p>次に「安城の今昔3 お米のモノがたり」の音声ガイドは1.6%と低い割合になっておりますが、コロナ渦ですので音声ガイドを身に着けることに抵抗があると思います。写真や解説も充実していて資料もゆったりと配置されていたので、音声ガイドはなくても十分わかりやすい展示内容になっていました。</p> <p>現在開催している「美 v i d U k i y o - e ! - 美人画浮世絵展 -」の音声ガイドは、これまで手作りでやられていると聞いてましたが、プロの方ですか。非常に聞きやすいもので今後も続けてほしいです。</p>
事務局	音声ガイドは指定管理者の職員にやっていただきました。
A委員	<p>企画展「お米のモノがたり」について、安城市内の小中学校の生徒の反応はどうでしたか。学校によっては米作りをしているところもあるかもしれませんが、ほとんどは馴染みのない資料だと思います。</p> <p>久保さんは文化庁の文化審議会専門会議の委員までやっている人なのでそういう方の指導を受けて、博物館が収集・保管してきた多くの民俗資料をどのように生かしていくのかを考えていただきたいと思います。例えばそうした生活に関わる資料のマニュアルを作成して民具の貸し出しキットをつくることも考えていいのではないのでしょうか。やはり子どもたちには体験してもらうのが一番だと思いますので、博物館の見るに対して、触れる機会を増やしていくのが良いと思います。</p>
会長	A委員のご意見に関連して、展示関連イベント「東尾農業倉庫と農具実演見学会」をやられたということで非常に良い取り組みだと思います。かつて学校現場の要望にあわせて資料をセッティングして貸し出すということをやかけたことがあります。そうしたシステムができ

	るといいと思いますが、どうでしょうか。
C委員	現任校はなかなかそうした機会がありませんが、前任校では地域の農業に携わるお年寄りの方に昔の民具を持ってきていただき体験する授業がありました。コロナ渦では短時間でやるのが良いのかもしれませんが、A委員や会長のいう貸し出しキットのようなものがあって時間をかけた授業ができると子どもも理解しやすくありがたいと思います。
会長	小学校の授業には昔のくらしという授業もありましたよね。社会科の先生に要望を出していただき、現場と博物館の共同作業で貸し出しキットができていくと良いと思います。
A委員	今の子どもたちはダイヤル式の電話の使い方がわからないと思います。博物館の残すべき資料が大半なのでしっかり保管しながら、資料が複数あれば一つは体験用にするとかで活用も考えていけると良いと思います。
会長	連続講座「村絵図で巡る安城今むかし」はコロナ渦で中止になると思っていましたが、博物館で定員を調整するなどコロナ渦での開催を考えていただき実施することができました。止めることは簡単ですが、博物館へのニーズがありますので、それに対して何とか応えようという姿勢がありがたく思っています。
D委員	今年度から委員を務めさせていただくことになりました。博物館とは神谷素光さんが館長のころから関わっていて、ここ10年ほどシルバーカレッジで郷土の歴史の講師を担当しています。毎回40数名定員いっぱいの受講生がいるので、必ず3つの質問することになっています。一つは、「安城市で生まれて育った人ですか？」で、およそ三分の一は市内の方で、市外から安城に来た人が三分の二もいることがわかります。二つめは、「博物館に行ったことがありますか」で、およそ6割から7割行ったことがあると回答いただきます。三つめは、「徳川家康の先祖は安城にいたことを知っていますか」で、またこれも三分の一ぐらいの人が知っていると言います。シルバーカレッジに参加する人は65歳以上が多く、そうした方は現役で仕事をしていた頃は子どもが通った学校と地元の神社ぐらいしか知らないと言います。地元のことをあまり知らないのも、シルバーカレッジに入って勉強しようという方がほとんどです。そうした人に話をしてみると、安

	<p>城市の地理、桜井古墳群や安城松平、最近では明治用水も知らないと言います。博物館の展示や講座で学術的なものも必要だと思いますが、私は市民全般に文化財や史跡を広く浅くてもいいので知ってもらう展示が良いと思います。愛知県ボランティアガイドの代表になっていまして会員は3千人ぐらいいますが、ガイドの理事会において歴史博物館の催し物を案内しています。令和2年度の特別展「家康と松平一族」に30数名の仲間が来てくれましたが、そうした安城市外の観光や商工の関わる人々の感想を聞いてみると、安城市歴史博物館はレベルの高いものを行っているとして評価が高いです。ただし、そうした人々はマニアの人も多く、やはり一般市民を対象とするような、例えば高山会長の連続講座もそうだと思いますが、歴史・文化の裾野を広げるような展示や講座をぜひやってもらいたいと思います。</p>
事務局	<p>たくさんのご意見をいただいたので、一つずつ整理してお話しします。</p> <p>久保さんは、昨年度の「安城の今むかし2 こよみとくらし」で記念講演会をお願いしていた中止になり、1年越しをお願いしてさらに延期となりました。今回は勤務先から市外に出ていけないということでしたが、展示の最後のところでなんとか講演をいただくことができました。新編安城市史から関わっていただいていた方なので、私も昔から存じ上げていて、そうした民具に対する熱意が受講者の方に伝わってよかったと思います。愛知県内の身近に良い学芸員がいるので、そうした薫陶を若い学芸員にも受けてもらえてよかったと思います。</p> <p>次に、体験用民具については用意がされておりました、学校の先生から求めがあれば貸し出しができるようになっていきます。見学学習の説明会で各小中学校の先生方にご案内しており、毎年冬の時期に、小学校3年生ぐらいへの貸し出しが結構あります。会長などが言われるような、貸し出しキットという点については提案しておりませんでしたので、考えていく必要があると思います。また「東尾農業倉庫と農具実演見学会」は稲穂の付いた稲を事前に準備しておく必要があります。学校の先生と博物館の間でさらに情報交換できると良いと思っています。学芸係には社会教育指導員の先生もいますので、そうした関係を築いていければと思います。今年度の見学学習でいえば、例えば里町小学校の見学学習を担当された先生は非常に熱意があり、オリジナルな見学</p>

	<p>学習を投げかけてきてくださり、こちらもそれに何とかこたえようと進めました。</p> <p>なお、小学校の見学学習については原則6年生ですが、バス利用を必要としない安城南部小学校では3・4年生も授業で博物館を利用していただいています。</p>
事務局	<p>昨年度は新型コロナウイルスについてどうしたらよいかわからないところから始めました。そうしている間に実例が出てきて、定員は半分でやりましょう、距離をとりましょう、消毒をしましょうというかたちになりました。今年度についてはまずやってみよう、やってみずくなったらやめてしまえばいいという考えで、そうした前提で会長ら講師を依頼した方々の予定を仮押さえさせていただき進めてきました。今年度の文化振興課ではまずやってみようということで、昨年と比べればほぼやりきってきたと思います。</p> <p>D委員がおっしゃられたところで言いますと、安城市民にまず歴史博物館に来てもらいたいと思っています。私も安城市で生まれ育ち、農具のことや日本デンマークのことを昔から学んできました。ただし、博物館で歴史だけやっても来ていただけない層がどうしてもありまして、そのあたりは指定管理者と相談して若い人に来ていただくためにどうすれば良いかということを考えています。若い人に興味を持っていただくため、体験的なイベントやマルシェといったイベントを実施する、そうしたイベントに訪れた若い人が歴史博物館で無料の展覧会をやっているのを見てみようと思っていただく、そして博物館もなかなか良いことをやっているねと感じていただく形ができればと考えております。今後も指定管理者と一緒に考えながら、まず博物館に来ていただくこと、そして常設展や企画展にも来ていただけるようになると良いと思っております。</p>
B委員	<p>今年か昨年かあまり覚えがありませんが、遠足の時期に中学生が公園で昼食を食べている風景をみたことがあります。緊急事態宣言などで使用できない施設が多いなかで、博物館一帯は自然もあり、展示も充実しています。一昨年度でいえば消防に関する「安城の今昔1 火消しまいる」もあり、こうしたものはバス利用ができるできない関係なく、ぜひ見てほしいものです。博物館側も学校側へ情報を投げかけていただき、学校と博物館の交流をさらに増やしていただきたいです。</p>

C委員	<p>小学校ではバス利用ができるので気軽に見学学習に来させていただくことができます。そして、見学学習の担当が社会科の免許を持っているような先生であると力を入れてやっていただけます。現任校では博物館見学のほかにも、二子古墳だけでなく碧海山古墳や姫小川古墳など種類の違う古墳を現地で見学するメニューを考えて実施することができました。</p> <p>それに対して前任校は中学校でしたので、バスが利用できないという難しさを感じていました。そうした中で、長距離歩行等の立志の関係で、かつてはチェックポイントとして見ていくような形にしたことがあります。これは博物館をしっかりと見るものになっておらず、学習の方法としては良くないものでしたので反省して、次の年から改めた経緯があります。博物館には、長距離歩行に合わせて見学するため靴が汚れている生徒もいて迷惑をかけていると思いますが、協力いただき実施できています。</p> <p>また、この場をお借りてお礼をしたいと思います。安城市の教育研究会が5月21日に北部小学校で行われ、安教研の社会科部会で6年生の先生が提案授業をさせていただきました。今年度から安城市でマイタブレットということで子ども一人に一台のタブレットで勉強させていただいています。ただし、やはり映像は平面ですので、実際に自分の目で見てということで縄文時代、弥生時代について深く勉強させていただきました。限られた人数でしたが、本当に勉強になりました。講師で来ていただいた愛知教育大の近藤先生も先生に助言するために事前に博物館の学芸員の方とお話をされたと聞いています。一学期、まだコロナが収束していませんが、これまでの1年間に安城市内でも学校休業や分散登校、またコロナ感染すれば学校閉鎖などを経験する中で、経験値を高め自信をもって対応できていますので、一学期に対応いただきました16校について、お礼を申し上げます。</p>
会長	それで他はよろしいでしょうか。ありがとうございました。

< (3) 令和3年度下半期事業案 >

会長	それでは、「(2) 令和3年度下半期事業案」について、事務局からの説明をお願いします。
事務局	(説明)

会長	それではご質問等がありましたらお願いします。
D委員	直接的に下半期の事業についてではありませんが、1月から開催された特別展「家康と松平一族」について、友人・知人に展覧会の感想を聞くと、誰しもがこれだけ多くの家康関係の資料を集めてあってすごかったと言います。私も見学すると確かに松平展を3回分ぐらい開催できる資料があり、3回見にきました。よくあれだけの資料を安城は集めたなあ、そして内容も非常に濃いもので、安城市民として学芸員の努力とこうした展示を見る機会を作ってくれたことにお礼を言いたいです。質問は、「家康と松平一族」のような展覧会はあと一か月長く開催することはできませんか。展覧会はどのように期間が決まるのでしょうか。入館者数を見ながら延長するとかはありますか。
事務局	展覧会では資料保存の観点を第一に考えています。会期としましては実開館日数で30日ちょっとというぐらいに目安を置いており、それ以上になるようであれば展示替えを行うことを考えます。収蔵品展が長い期間であるのは、当館の資料で比較的制約がないということが前提になっています。歴史博物館の特別展での借用資料になると、歴史史料が中心になりますので資料保存について厳格になってきます。松平展については一週間ぐらいであれば会期的に延ばして設定できたかもしれませんが、多くの資料をお借りしたので、次にはお返しすることを考えねばなりません。年度内に業務を終えることや次の展示のことなどを考えた結果として開催期間は決めました。
D委員	<p>わかりました。私が「家康と松平一族」を見学しているとき、近くに近隣市の職員の方、博物館関係の方だと思われる方がいました。その方の話を聞いていると、展示物の量がすごく、安城市はこうした歴史博物館のような施設があっただけいいねと言っていました。本当に展示資料はギャラリーまで使って見事でしたが、一つ言いたいのは本館に資料が詰めこみすぎて、ギャラリーは少し資料がすいていました。展示環境や防犯対策などの問題もあつたことだとは思いますが。</p> <p>『加賀本多家』はかつて本多正信も悪役のように描かれることが多かったですが、近年では良い役になりつつありますね。多くの方が来館してくてくれると期待しています。</p> <p>それと安城市歴史博物館の常設展示ガイドボランティアは20名程度登録されていると思いますが、その中の一人に話を聞いてみると実際に常設展示を案内できるのは10名もいないと聞きます。せっかく常</p>

	<p>設展示ガイドの勉強もされているので、縄文・弥生にはじまり現代までの通史展示で解説が難しいのもわかりますが、小中学校の見学学習ができるようにはなってもらいたいと思います。私を講師に呼んでもらえれば3～4回ぐらいの講座で自信をもってやっていただけるまでにしますので一度考えてください。また、こうした常設展示ガイドボランティアが組織される前は私たちのような安城ふるさとガイドボランティアが常設展の案内をしていた時期もあります。現在も安城城を案内して博物館の展示解説を行う場合もありますが、その逆に博物館から安城城を見学したいという方が博物館受付で案内を希望されたときに、説明できる者がいませんと断られることがあるようで、私に電話がかかってくる場合があります。博物館と史跡を一体として説明できる人材を育てること、またガイドの方には土日の午前10時から午後3時までとか、開館中すべてでなくてもいいので2名程度常駐しているような形にしてもらえると良いと思います。</p>
B委員	<p>特別展『女子のたしなみ』は、現在でもオリンピックは女性委員を増やすとか、世界でも男女平等と言われながらもなかなかそうなっていません。展示の中心は近代から近世とお聞きしましたが、歴史は現代へ繋がっているわけですので、展覧会の最後の部分には将来への展望、未来への願いという部分もぜひ盛り込んでいただきたいと思います。私も最初の子どもを産んだとき、産休は三か月だけしかとれませんでした。それから育休ができ、男女共同参画とか言われるようになり、最近では働く女性に対する見方も変わり、女性活躍推進法など法でも守られるようになってきましたが、実際にはやはりまだまだ平等とは言えないですね。この時代はこういう風でしたよという展示はその通りだとは思いますが、それだけに終わらない部分をぜひ考えてもらいたいと思います。</p>
事務局	<p>がんばります。</p>
B委員	<p>そうですね、抜かりはないとは思いますが、そうした思いがありますのでお願いをしました。</p>
会長	<p>私たちの思いも、担当者に託すということですね。</p>
A委員	<p>安城市歴史博物館は『家康と松平一族』をはじめ松平関係の展覧会や講演会で全国的にも知名度が高まっています。『加賀本多家』のような5万石ということで大名クラスの家ですね、そうした加賀本多家</p>

	<p>の資料群をある程度まとまって借りることができるということは、信頼関係がないとできないことです。安城市歴史博物館の長い地道な調査研究に基づく展示や講座が功を奏していると思います。大名家の資料を借りることは難しいことで、しかもある程のまとまりで借りてくるということはさらに難しいことですが、そうした評価を得ているからうちでも貸してもいいということになるわけです。一つの展覧会としてできるだけすごいことだと思います。</p> <p>『家康と松平一族』を担当した学芸員は頻繁に名前が出てきていますが、古文書の講師を務めることができる方です。その学芸員の次に誰がいるのかが大きな問題になってくるだろうと思います。先ほど民俗の学芸員をどう育てていくか、久保さんとうまく組み合わせていければという話もありましたが、学芸員は分野的なものが強いものです。安城市の歴史を考えたときに近世というのはその他に比べても背負っているものが大きいと感じます。博物館の収蔵資料の大半も古文書で、地域の人にも密接したそうした資料の整理を束ねているのは松平展を担当した学芸員です。そろそろ後継的な役割を持った、古文書がある程度読める人材を採用するなり育てるなりすることを考えることが必要だと思います。そうした実績をどう引き継いでいけるか、こうした展覧会ができることは並大抵ではない蓄積があるからですので、それを知っていただき、どう繋げていくかを考える時期だと思います。</p>
会長	他はよろしいでしょうか。協議事項は以上とさせていただきます。

### < 3 その他 >

事務局	会長ありがとうございました。それでは次に「3 その他」に移ります。説明いたします。
事務局	<p>(説明)</p> <p>次回の第3回博物館協議会は令和4年1月25日で予定させていただきますと思います。</p> <p>毎年11月頃に博物館協議会・文化財保護委員会の合同研修会について、今年もコロナ渦の中で未定です。今年度の研修担当は文化財係になりますので、研修会の有無を含めて後日ご連絡させていただきます。</p>
事務局	以上をもちましてすべての予定が終了しました。最後に委員の皆様から何かございますでしょうか。

	<p>ないようですので、閉会のことばを生涯学習部長から申し上げます。</p>
生涯学習部長	<p>長時間にわたり慎重なご審議をいただき、ありがとうございました。また審議の中では博物館へのエール、高い評価をいただきましてありがとうございました。</p> <p>4月から生涯学習部長となりました永井と申します。オリンピックを応援する立場にありますので、軽装で参加させていただきました、ご理解いただければと思います。ちなみに背中には開会式で話題となりましたピクトグラムがありました。</p> <p>昨年度は歴史博物館が開館30周年ということで改修による休館から再オープンしたその矢先にコロナウイルス感染症ということで、休館いたしました。ここにきている指定管理者と協議しながら安全・安心を第一に開館し、引き続き対策をとりながら、なるべくみなさんにきてもらいたいということで運営しております。今年に入りまして緊急事態宣言が出され第1回博物館協議会は中止させていただきました。この感染症につきましては先が見えないこともあり、今後もこのような博物館の運営していかねばならないと思っております。高山会長もおっしゃられたように、こうした時期だからこそ、コロナだからこそ、文化振興していくことが我々の使命だと思っております、熱戦が繰り広げられているオリンピックは人々の心を動かしておりますが、博物館も十分心を引き立たせる、そうした訴求力があります。限られた状況ではありますが、やれることをやる、なるべくたくさんの方にきてもらう、そうしたことを思いながらしっかりと運営をしていきたいと思っております。</p> <p>今後も状況をみながら、委員の皆様には様々な視点でご意見をちょうだいしながら進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。本日はありがとうございました。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。この後、時間の許される委員の方には、企画展示室にて開催中の特別展「美V i d U k i y o - e ! - 美人画浮世絵展」をぜひご覧ください。本日はありがとうございました。</p>